

釧路南ロータリークラブ会報

第22回 例会報告 2008.12.12 通算1281回

・点 鐘 北上会長

良く分かりませんが皆さんに置かれましては是非、健康と共に楽しくお過ごしされ、すみやかに人生の.....を全うまでつつがなくお過ごしください。

・ロタリーソング
「我等の生業」



ソングリーダー 原田 眞則会員

・幹事報告



- * 別海RCより12月例会プログラムと会報を拝受しております。
- * 2月11日(水曜日・祝日)帯広北ロータリークラブ創立50周年記念式典・祝賀会があります。

・会長挨拶



こんにちは。先週の誕生祝いからという訳でもありませんが63歳を少し自覚してきました。先月初めの約10日間程の毎日、毎度の血の洗礼を受けて冷や汗ものの連日でしたが、幸い病院の検査でも、何事のこと無く終わりましたが、心なし歳を気にするようになったかと思えます。でも、まだまだ頑張らないともっと人生を気持ちよく楽しまいと、と思っているのは正しいか身の程知らずなのか、まだ

・委員会報告

会計 2007～2008年度・決算報告(長江会員)

出席委員会

<11月2日分>

会員26名 14名出席 53%



・本日のプログラム

「 会員卓話 」

担当 四大奉仕委員会

清水 哲会員



度量衡にまつわる漢字の話です。度とは「長さ」量とは「かさ」衡とは「重さ」の事です。我が国の度量衡は文字等とは一緒に中国から移入されたものです。ものさしやはかりのなかった時代には、人間の身体を基準にして物を計りました。漢代の書「大戴礼」に指を布いて寸を知り手を布いて尺を知り肘を舒べて尋を知ったと述べて古代の中国の尺度が指や手の長さ由来していることを明らかにしております。今でも反物を手でしごく様にして長さを計ったり両手を広げて大木の周囲を測り足で距離を歩測する。これは大古の時代からの人間の知恵を無意識のうちに復習しているわけです。もとより英語のフィートという単位は足で歩測する習慣からおきたものであるうしドイツ語のアルムレンゲというのは肘で長さを計る事から由来すると聞きます。イギリスのヘンリー一世が自分の鼻先から指先までの長さを一ヤールと定めたとの伝説もあります。このような事を考えますと西洋のも素朴な計り方の由来を思わせる単位がないわけではないが、しかし中国では昔の人たちが自然に思いついた素朴な計り方がほとんどすべての単位の起源になっております。しかも中国五千年の歴史は脈々とし続き、長い間の伝承が古典を通じて保存され外、漢字という大古の文字が今だに伝えられているために、度量衡の単位が発生したいきさつを今日でも容易に察知する事が出来ます。まず尺という漢字は手を開いて尺とり式に物の長さを計る時の形を横から描いた象形文字であります。ゆえに尺とり虫の事を尺蠖(しゃくかく)と言いま

た次々に渡って行く点から、計る事を度と言うようになったのであります。成年男子ならこの手尺の長さは約22cm、成年女子の手は二割ほど小さいので約18cmでした。男の手の開きを単位としたのが「尺」、女のそれが「咫」であります。中国の古典に「手を布いて尺を知り」と言うのはこの事で尺も咫も短い長さを計る基本的な単位でありました。暗闇で見直しのきかぬ事を「咫尺を弁せず」と表現するのはこの事です。考古学者が先秦時代の貨幣の寸法から帰納した結果によると、春秋戦国時代の尺は22.5cm、咫は18cmであったといひます。寸の字の点是指一本の意味であり、十分の一尺という事で10寸=一尺という長さの単位は自然に十進法を取るようになり、この原則が古くから定まったようです。丈とは10尺の事で偉丈夫、大丈夫という言葉は現在の尺度で考えると常識から外れているようであるが咫尺の10尺ならば今の180cmに当たるからさして異にするにはあたりません。また「尋」は8尺、「常」は16尺でした。漢の時代の書「説文」に人の両臂を拡げると尋になり8尺に当たると書いてあります。尋の旧字体を分析すると右手左手を組み合わせた形であります。我々が両手を拡げて指先から指先での手尺で計ってみればまさしく8回つまり八尺になります。尋も常も尺寸に次ぐ普通の長さの単位であるから「尋常」という熟語はやがて普通という言葉に転義されました。また墨という単位もありました。

・次回のプログラム

12月19日(金)

「 上期の反省・下期の検討 」

会場 釧路ロイヤルイン 11F

担当：会長・幹事

・点 鐘 北上会長

今週の会報担当：佐藤玄史会員